



# 生涯学習センターだより

2019.10.29(火) 10月号 (2019年度第4号：通巻27号) 発行：秋田県生涯学習センター (TEL.018-865-1171)

## 「地域活性化研修」で「熟議」を体験しました

生涯学習センターでは、学びを生かした地域づくりについて理解を深める「地域活性化研修」を開催しています。今年度は「コミュニティ・スクール」をテーマに県内の3校で研修を行い、基礎的な知識や事例を学んだほか、ワークショップでは「熟議」(じゅくぎ)の体験も行いました。

### 【コミュニティ・スクールとは?】

コミュニティ・スクールとは、保護者・地域住民・学識経験者・校長等によって構成される「学校運営協議会」を設置した学校のことであり、学校の方針や活動に地域のニーズを的確に反映させ、最終的には持続可能な地域づくりに生かしていくことを目的とした制度です。



「コムスク」の基本を学習

### 【県内でも導入が進んでいます...】

秋田県内でも142校がコミュニティ・スクールを導入しており、年々その数は増加しています。

今年度、研修の会場校を引き受けていただいた大館市立城西小学校、男鹿市立脇本第一小学校、県立ゆり支援学校の3校では、それぞれの校長から実践事例を紹介していただき、学校に対する地域の思いや、子どもたちの健やかな育ちへの願いをコミュニティ・スクールというツールを通して汲み上げ、学校経営に効果的に生かしていることが理解できました。

しかし、県内の学校においても、制度は導入したものの、地域住民のニーズをどうやって把握して運営に生かしていけばよいか(学校側)、この制度にどのように関わっていけばよいか(住民側)といった点について、まだ十分に理解が進んでいないケースも見られます。

### 【そこで、「熟議」が大切です】



学校で「熟議」の体験中

コミュニティ・スクールを効果的に推進していくためには、関係者同士が目標を共有し、目指す方向を明らかにすることで、お互いに当事者意識をもって活動に臨むことが大切です。そこで今回の研修では、意識合わせの手法である「熟議」の体験を行いました。

各会場とも、子どもの育ちに関わるテーマを設定し、途中でグループを替えながら約1時間半の話し合いを行いました。参加者は、話し合いの中から考えが集約され、共有されていく過程を体験することで、「目標を共有し、それぞれが当事者となる」意味を実感していた様子でした。

「熟議」を行う意義は、「様々な立場や考えの人が集まり、話し合いを通じて目標を共有し、課題の解決に向けて協働していく。それが学校や地域の活動に反映され、成果を共有することでさらに地域が結束していくことである」と再認識することができました。

県内でコミュニティ・スクールが有効に機能し、持続可能な地域づくりにつながるよう、生涯学習センターでは引き続き研修や相談等を通じて、市町村や各学校の「困り感」を解消できるよう努めていきます。

### 市町村職員専門研修(兼)公民館等職員専門研修 「障害者の防災講座」を実施しました

前号に掲載したとおり、「市町村職員専門研修(兼)公民館等職員専門研修」では、市町村教育委員会や公民館・市民センターの職員等が集まって運営チームを作り、グループワークを重ねながら、「障害者の生涯学習」に関する講座を企画しました。

テーマは「障害者の防災講座～共生社会をめざして～」とし、10月12日(土)に講座を開催しました。当日は車椅子の方など7名が受講し、障害者ならではの備えや注意について学んだほか、ポリ袋を使った調理などを体験しました。

本研修の経験を生かして、今後の市町村への普及が期待されます。



災害時を想定した調理体験

# 秋田県生涯学習・社会教育研究大会 (兼) 行動人交流集会

## テーマ:30年後の社会教育を見据えて

日時:令和元年11月15日(金) 10時~15時  
会場:秋田県生涯学習センター 3階 講堂



### ◇基調講演

「30年後の社会教育を見据えて  
~学び合うコミュニティの形成に向けた課題と方策~」

講師:東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授  
学習支援センター 副センター長 **佐藤 智子氏**

### ◇研究報告『障害者の生涯学習』に関する取組について

### ◇分科会

第1分科会「これからの社会教育を見据えて、今私たちが  
やらなければならないこと ~社会教育関係者の責任~」  
(主対象:行政職員、社会教育委員、家庭教育支援関係者、学校関係者)

第2分科会「これからの生涯学習を考える  
~『行動人』のこれまでとこれから~」  
(主対象:生涯学習奨励員、行動人の方、生涯学習に関心のある方)

### ◇フリー交流タイム (任意参加)

◆研修レポート解説 ◆生涯学習活動の展示紹介 ◆障害者スポーツの体験

### 【参加申し込み】

- ◇市町村関係者(職員・社会教育委員・生涯学習奨励員・家庭教育支援チーム員等)  
→各市町村の担当部署で参加者を取りまとめるうえ、お申し込みください。
- ◇団体で参加の方、個人参加の方 →直接、県生涯学習センターにお申し込みください。
- ◇県関係者・学校関係者 →各部署・機関・学校ごとに参加者を取りまとめるうえ、お申し込みください。
- ◇いずれも参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAXかEメールで、令和元年11月8日(金)までに県生涯学習センターまでお申し込みください。  
(ホームページから要項や申込書様式をダウンロードできます)

一日程	
9:30	受付
10:00	開会行事
10:10	
10:20	基調講演
11:50	
11:50	昼食・休憩
12:40	
12:40	研究報告
13:10	
13:20	分科会
15:00	
15:00	フリー交流タイム (任意参加)
15:30	

**【関心のある方はどなたでも参加できます。申込方法などは気軽にお問い合わせください】**

**【お知らせ】** 今後の生涯学習センターの主な行事を紹介します。

### ○「遊んで学ぶ!親子のインターネット」 11月29日(金)

【講師:高橋 大洋氏(子どもたちのインターネット利用について考える研究会事務局)】  
未就学児(3歳以上)と保護者を対象とした講座です。親子で動画を作成しながら、子どものインターネットやゲーム等の使い方について楽しく学びます。

### ○「より豊かな社会を築く最新情報技術 ~人工知能と複合現実による技術革新を通して~」

あきたスマートカレッジ「あきたチャレンジゼミ」K5講座 11月30日(土)  
【講師:榊原 彰氏(日本マイクロソフト株式会社 執行役員 最高技術責任者)】  
世界の最前線で活躍するICTの専門家による講座です。最新の情報技術を学び、来たるべき新しい時代をどう生きるか考えるための絶好の機会です。

### ○第69回 秋田県自作視聴覚教材交流発表会 令和2年2月21日(金)

学びが多様化し進展する今日、ICT教育に対応した教材を創造し、郷土・地域の特長を保存・継承するような独自の発想にもとづく視聴覚教材の制作と活用をはかるため、発表・交流の機会を設けます。現在、参加作品の申込を受付しています。締め切りは令和2年1月15日(水)(※必着)です。